

さとう はじめ
佐藤 基

明治27年～昭和43年(1894～1968)
医学博士 角田市



医者の仕事しながら研究にはげみ、インシュリンという薬を、世界で初めて発見しました。発表の手続きに時間がかかったために、ノーベル賞をのぎましたが、医者としての信頼はさらに高まり、その後も病気で苦しむ人々を救いました。

人々の幸せを願って

やつ はつね
谷津 はつね

明治40年～平成8年(1907～1996)
助産師 丸森町



人のためにつくす仕事をしたいと考え、助産師になりました。赤ちゃんが生まれそうだと聞くと、夜中でもかけつけて出産を助けてました。雨の日も雪の日も休まずに仕事を続け、37年間で4,000人の赤ちゃんの命の誕生を見守りました。

まつやま きょうこ
松山 京子

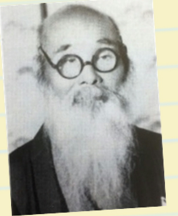
明治39年～平成16年(1906～2004)
医師 大河原町



医者がいなかった村に医院を開き、多くの人々の病気を治しました。また、子供たちの心と体の健康を保つための活動にも取り組みました。深い思いやりの心で、昼も夜も休みなく治療に当たり、地域の人々からしたわれました。

ながさわ さいきち
永澤 才吉

天保11年～昭和11年(1840～1936)
古川村戸長(村長) 大崎市



明治時代、古川地域ではコレラという病気により、多くの人々が亡くなりました。当時、古川村の戸長だった永澤才吉は、川の水のよごれが原因だと考え、安全な水を供給するために、自分で費用を出して工事を進め、宮城県で初めて水道を整備しました。

さいとう まこと
齋藤 真

明治22年～昭和25年(1889～1950)
医学博士 美里町



脳外科学の新しい分野をひらきました。海外に留学して学んだ後、医者としての仕事をしながら先進的な研究に取り組み、多くの成果を世界に発表しました。戦争の混乱の中でも人々の命を救い、その後も医者や医学の発展につくしました。

かとう きん
加藤 きん

明治23年～昭和55年(1890～1980)
看護師 登米市



ナイチンゲールの生き方に感動し、看護師を志しました。ヨーロッパやアジアの戦地に何度もわたり、敵も味方も区別することなく救護するという広い心をもって、傷ついた人々を救いました。長年の働きが認められ、ナイチンゲール賞を受賞しました。

新たな可能性を求めて

あいざわ こうしろう
相澤 幸四郎

明治30年～平成12年(1897～2000)
白鳥・ガン愛護会長 登米市



ふるさとの新田地域をよりよくするためには、自然環境や伝統文化を守ることが大切と考え、自らの財産を費やして活動しました。特に白鳥の保護に力を入れ、その努力により、伊豆沼や内沼がラムサール条約湿地として登録されました。

まきの とみさぶろう
牧野 富三郎

生没年不明(江戸～明治時代)
ハワイ移民者の代表 石巻市



ハワイ移民船・サイオト号
出典:「ハワイ移民の歴史-新天地を求めた苦難の道-」国書刊行会

江戸時代が終わり、世の中が混乱していたころ、多くの日本人が仕事を求めてハワイに移り住みましたが、きびしい仕事をさせられるなどの差別を受けました。牧野富三郎は、ハワイで働く日本人の生活をよりよいものにするために活躍しました。

ひの とうきち
日野 藤吉

嘉永2年～大正14年(1849～1925)
梨栽培農家 利府町



米作りに頼って収入が不安定だった利府の農業に、梨の栽培を取り入れました。始めのうちは冷ややかに見る人もいましたが、強い信念をもって働きました。栽培が成功し、天候に大きく左右されずに収入が得られるようになり、大恩人とたたえられました。

みやぎ しんしょう
宮城 新昌

明治17年～昭和42年(1884～1967)
水産事業家 石巻市



カキの養殖に興味を持ち、アメリカの研究所で学びました。日本にもどってからは、多くの人々にカキを食べてもらえるように養殖の仕方を研究しました。工夫を重ねて、新しい養殖法や種カキの輸出方法の開発に成功し、その技術は世界に広がっています。